

津山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	世界史
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(先進科学系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『世界史B』実教出版, 『最新世界史図説タベストーリー』帝国書院				
担当教員	田中雄祐 (一般)				
到達目標					
学習目的: 通史の概説講義を受けたのち, 主体的に歴史学上の課題に取り組むことによって, 歴史的な思考を展開する訓練をおこなう(経験する)ことが目的である。					
到達目標 ・人文・社会科学的な視点から人間, 社会, 文化について多面的に理解し, 国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う意識をもつこと。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち, 幸福とは何かを追究しながら, 技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う意識をもつこと。 ・日本を含む世界の様々な生活文化, 民族・宗教などの文化的諸事象について, 歴史的観点から理解できる必要性を理解すること。					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	人文・社会科学的な視点から人間, 社会, 文化について多面的かつ詳細に理解できる。	人文・社会科学的な視点から人間, 社会, 文化について多面的に理解できる。	人文・社会科学的な視点から人間, 社会, 文化についてある程度多面的に理解できる。	左記に達していない。	
評価項目2	日本を含む世界の様々な生活文化, 民族・宗教などの文化的諸事象について, 歴史的観点から詳細に理解できる。	日本を含む世界の様々な生活文化, 民族・宗教などの文化的諸事象について, 歴史的観点から理解できる。	日本を含む世界の様々な生活文化, 民族・宗教などの文化的諸事象について, 歴史的観点から大まかに理解できる。	左記に達していない。	
評価項目3	十分に授業に参加すること。	2/3以上の授業に参加すること。	2/3以上の授業に参加すること。	10回をこえて欠席すること。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別: 専門 学習の分野: 一般 人文・社会 必修・履修・履修選択・選択の別: 必修 基礎となる学問分野: 史学・歴史社会学 学科学習目標との関連: 本科目は目標「①教養豊かな実践的人間力の養成、⑤グローバルな視点と社会性の養成、⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球の視野に立った人間性の育成」〔B-2:地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し, 説明できること〕である。 授業の概要: 世界の歴史を現代世界の諸問題や日本列島との関係にも言及しながら概観する。膨大な学習対象の量に比して, 時間数は限られているため, 限定されたテーマを扱うことになるが, 本講義は現在の世界や日本の諸問題をつねに意識しながらすすめられる。				
授業の進め方・方法	授業の方法: 教科書や資料集だけでなく, 別途資料などを適宜配布する。年に数回, 課題への取り組みを求める。また, 講義内容は受講者の状況などを参照しつつ柔軟に設定する。 成績評価方法: 年4回の試験(80%, その内訳は20%×4)及び課題(20%)によって行う。定期試験では教科書・ノートの持ち込みを許可しない。原則として, 再試験は実施しない。課題の詳細は授業中に指示する。				
注意点	履修上の注意: カリキュラムにおいて設定されている時間数に比するならば, 学習内容は膨大である。授業において, すべてを網羅することは不可能なので, 図書館の利用などによる主体的学習が望まれる。本科目は学年の課程修了のために履修が必要である。 履修のアドバイス: 積極性をもって講義に関わることが肝要である。 基礎科目: なし 関連科目: 政治経済(全系2年), 日本史(全系2), 異文化社会論(全系4), 日本社会論(全系4) 受講上のアドバイス: 受動的態度による受講では学習に喜びを見いだすことは困難である。積極的に学習する意欲をもってはじめて学習成果は教養となることを銘記されたい。遅刻(開始時間におくれること)については受講者の自覚を求め, 特段のペナルティはあたえない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・概説		
		2週	古代民主政と民主主義の発展(1)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	
		3週	古代民主政と民主主義の発展(2)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	
		4週	古代民主政と民主主義の発展(3)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	
		5週	古代民主政と民主主義の発展(4)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	
		6週	古代民主政と民主主義の発展(5)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	
		7週	(前期中間試験)		
		8週	古代民主政と民主主義の発展(6)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	
	2ndQ	9週	キリスト教とイスラーム教(1)	当該分野における基礎知識を獲得すること。	

後期		10週	キリスト教とイスラーム教 (2)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		11週	キリスト教とイスラーム教 (3)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		12週	キリスト教とイスラーム教 (4)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		13週	キリスト教とイスラーム教 (5)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		14週	キリスト教とイスラーム教 (6)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		15週	(前期末試験)	
	3rdQ	16週	近代社会の成立と帝国主義 (1)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		1週	近代社会の成立と帝国主義 (2)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		2週	近代社会の成立と帝国主義 (3)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		3週	近代社会の成立と帝国主義 (4)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		4週	近代社会の成立と帝国主義 (5)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		5週	近代社会の成立と帝国主義 (6)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		6週	二度の世界大戦から東西冷戦へ (1)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		7週	二度の世界大戦から東西冷戦へ (2)	当該分野における基礎知識を獲得すること。
		8週	(後期中間試験)	
		4thQ	9週	二度の世界大戦から東西冷戦へ (3)
10週	二度の世界大戦から東西冷戦へ (4)		当該分野における基礎知識を獲得すること。	
11週	二度の世界大戦から東西冷戦へ (5)		当該分野における基礎知識を獲得すること。	
12週	二度の世界大戦から東西冷戦へ (6)		当該分野における基礎知識を獲得すること。	
13週	現代の世界 (1)		当該分野における基礎知識を獲得すること。	
14週	現代の世界 (2)		当該分野における基礎知識を獲得すること。	
15週	(後期末試験)			
16週	現代の世界 (3)		当該分野における基礎知識を獲得すること。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0